概要

件名	東部地域における学校の給食運営について 保護者説明会 （都祁小・中学校区）
日時	令和8年10月26日（月） 午後7時～午後7時40分
場所	都祁交流センター 多目的ホール
従事者	教育部次長、保健給食課 4名
参加者	保護者 1名、奈良市市議会議員 1名
内容	事務局からの説明 「東部地域の学校給食の運営について」資料を配布して説明 1 現在の東部地域の学校給食の状況 2 東部地域の学校給食の課題 3 これまでの説明会などの開催状況とご意見 4 検討した結果 今後の方針 5 問い合わせ窓口 ＜質疑応答（Q&A）・ご意見（C：Comment）＞ Q. 現在使用している給食配送トラックは保冷車なのか。 A.保冷車ではない。 Q.現在東部地域の学校給食のために勤務している調理員の委託後の雇用体制について知りたい。 A.正規職員は市街地の直営校で勤務する予定。会計年度任用職員は自身が希望すれば、委託先の事業者で任用される可能性がある。 Q. 献立はどこが作成するのか。 A.引き続き、献立作成は、食材調達を含めて奈良市が行う予定。 Q. 賛成意見の割合はどのくらいか。 A.賛否の確認はしたことがないが、市が計画するのならば任せるが、責任を持ちきっちりと進めてほしいと市の施策を応援してくださる方もいる。 Q.給食費を上げることはできないのか。外食や中食で満腹まで食べるための必要経費は、現状の給食費よりももっと価格が高い。給食費が低すぎると思う。 A.令和8年4月に給食費を改定した。学校給食法で、保護者にご負担いただくのは食材費と決まっている。その他の光熱水費、設備費、人件費などは学校の設置者である市町村が負担することになっている。 C. 給食運営において課題がある今、運営方法を変えて給食を提供してもらうか、家庭から弁当を持参するか、という方法しかなくなると思う。それならば、絶対に給食を提供してもらう方がいいため、このまま委託化する計画を進めてほしい。 C. 地域の事業者へ委託することになれば、新たな雇用機会の創出が期待され、地域にとっても

	良いことである。 C．高齢化の進行は以前から感じていた。大量の食材を切る作業は腱鞘炎の原因となる可能性があり、立ち仕事も多いため、職員の高齢化に伴って作業体制の維持が難しくなることが懸念される。給食を継続して提供できるよう、対応可能なうちに作業方法や体制の見直しを進めてほしい。 C． 参加できなかった保護者にも情報が確実に届くよう、市の「さくら連絡網」やホームページへの掲載に加え、各学校からも周知してほしい。身近な学校からのお知らせの方が保護者の目に留まりやすいと考えられるため、本日の資料についても学校を通じて発信してはどうか。 C． 給食センターの耐震性能が十分でないことを把握していながら、なぜこれまで対応してこなかったのか、という意見があったとのことであるが、耐震工事を実施する場合、工事期間中は給食の提供を停止せざるを得ないため、これまで現状を維持してきたのではないかと考える。工事は短期間で完了するものではなく、夏休みなどに部分的な工事を繰り返すよりも、必要な改修をまとめて確実に行ってほしいと思うため、給食の提供を継続しながら運営してきたことについては、よかったと感じている。 C．配送が困難な場合に備え、備蓄食品を用意していることは知らなかった。給食が届かない事態が生じた際にも、状況に応じて柔軟に対応する経験は、子どもたちにとって学びの機会になると考える。 C.偏食の多かった子どもが、給食を通じて食べられるものを増やすことができた。給食は子どもの食生活を支える大切なものであり、保護者として大変ありがたく感じている。今後も奈良市の給食を継続して提供してほしい。 C．給食の量について意見を述べる保護者もいるが、献立は管理栄養士が栄養面を考慮して作成しており、必要な栄養価は確保されている。そのうえで、児童・生徒の状況に応じたクラスごとの配分方法についても工夫を検討してほしい。給食費の改定後は、量や献立の種類が充実してきたと感じている。 C． 委託化後も都祁産のお米が提供されることは、大変ありがたい。都祁産のお米が使われていることを知らない人もいると考えられるため、広く周知してほしい。また、生産者である農家の方々に直接感謝の気持ちを伝えられる機会があると、よりよいと考える。